

【12月月例会】

〈日時〉 12月24日(月)13:30~16:30
 〈場所〉 山梨県ぴゅあ総合 2F 小研修室1
 〈参加費〉 一家族 1,000円 (当事者は無料)
 〈内容〉 山田孝明さんと語ろう!



プロフィール
 京都ライフアート主宰
 桃の会スーパーバイザー
 25年にわたる訪問活動
 著述業

山田さんが出版された「8050 問題を生きる」のお話と共に、皆様からの質問にもお答えいただきます。
 リラックスした雰囲気の中で今年最後の暖かく楽しい時間を過ごしたいと思います。簡単な飲み物のご用意をいたしております。

《当事者スペース》

〈日時〉 12月24日(月)13:30~16:30
 〈場所〉 山梨県ピュア総合 2F 工芸美術室

※【12月のミニグループトークはお休みです!】

農園でギャザリングしよう

- ◆市民農園・・・1区画 55㎡(約17坪)1年間 6,000円
 場所: 甲府市七沢町
 友達、家族などで一緒に畑で過ごしませんか!
- ◆お問い合わせ=055-243-0261(相良農園)

すみれ会

- ◇月例会 12月15日(土)13:30~15:30
 今年も最後となりました。忘年会気分でお集まりください。
- ◇お問い合わせ=090-5416-8748(清水)



「一体私はいつまで保護者でしょうか?」「私の目の黒いうちは一つのパンを半分にしても共に生きてゆきたい、しかし親には限界がある」「子供の暮らしがすべて親にぶら下がっている」「愛情があるけれど、どうしていいかわからない」・・・これらの切実な思いは11月1日に発売された「8050問題を生きる」の山田さんの本の一部です。8050問題の渦中におられる方々のこの思いに衝撃を受けました。是非ご一読ください。売価 1000円です。ご希望の方は事務局にお申し込みください。(郵送料別)

桃の会今後の予定 2019年(H31)

- *月例会 1月20日(日)13:30~16:30
- *ミニグループトーク 1月27日(日)10:00~12:00

山梨県福祉プラザ

※予定が変更となる場合があります。



お問い合わせ
 TEL/FAX/☎
 0266-55-5411
 090-6190-8677
 〒391-0000
 長野県茅野市豊平泉
 グリーンヒルズビレッジ
 200-101
 桃の会事務局

桃の会は、皆様からの年会費、月例会・ミニグループトークの参加費、その他善意の寄付により運営されております。また会の運営についてお手伝いをしていただける方を募っております。ボランティアでの活動となりますが、ご協力をいただける方、よろしくお願いたします。今度事務局の住所電話番号が変わりました。ご注意ください。

山梨県 桃の会

HP: <http://momonokai.org/> E-mail: meri-sannokuni@softbank.ne.jp

会報第51号

出会いは、大きく自分の能力を

引き出してくれるチャンスである

出会う人によってその人の人生は

大きく変化する。

そのチャンスをチャンスとして生かすか

見逃すかは、自分自身である。



出会う、つながる、わかちあう

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 山梨支部



晩秋の法然院を歩く

山田孝明

看護ステーションのケアマネジャーさんから連絡を受けてあるご家庭を訪ねた。
 鹿ヶ谷の法然院の近くに住んでいられた。83歳のお母さんと長女のお姉さんとケアマネさんが同席していた。50歳なる息子さんの相談だった。
 20歳ごろから社会参加せずひきこもり状態を語る母親の表情は苦悩に満ちていた。若いケアマネさんから「どんな支援をしてくれるのですか？」と単刀直入に聞かれた。どんな支援ができるのだろうか。実は何もできないし、何か期待に応えることはとてもむづかしい。病弱のお姉さんも弟さんの事を心配していることが分かった。いろいろと考えて後、お母さんに「彼に葉書をだしますね」と伝えました。少しでも彼が人とつながりたいという気持ちを持っていてくれたらうれしいな。葉書を3、4枚だして、仲間の集まりの情報を知らせたいと思った。ケアマネさんからの問い合わせあるようなことは10年前では考えもしなかった。私は「必ず希望につながりますよ」と言葉を残してその家を辞しました。彼に届く言葉をどんなものだろうか考えながら法然院の前に来ました。
 法然院の門の前には紅葉した落ち葉が秋風に吹かれていました。

(桃の会スーパーバイザー)



君の好きな君でいてほしい

県へ要望書を提出してきました！

(.) 11月1日篠原代表以下甲府市市議員に同行していただき、県(窓口は障害福祉課)へ要望書の提出に行ってきました。当日の夕方の民法テレビニュースや山日新聞で報道されたのを気が付かれた方もいらしたかもしれません。助成のお願いは毎年、年度初め(今年は6月)にやってはいましたが、今年度は厚労省より全国のひきこもり関係に予算がつけられていることで、富士川町はじめいくつかの行政ではすでに動き始めているようです。桃の会としてもひきこもり支援の充実強化に向けて5つの要望を再度訴えました。回答は約一か月後ということで、この会報が皆様のお手元に届きます頃には具体的なものがあろうかと思えます。是非とも要望のすべてがかなえられればいいと思っています。

ピア Voice

～11月の月例会から～

今回の「当事者と語ろう！」は私にとって、とても悲しく辛くやりきれない思いがこみ上げてきた。
 親から子供へそそぐ愛がどれほど大事で不可欠なものであるか、改めて強く思い知らされる時間であった。
 物質では心の渇きは癒されない。そして、時間の経過もその渇きをいやすこともなくずっと引きずってゆく。
 そうした彼らの心の奥の苦しみに触れて、親としてとてもやり切れず、深い悲しみの中に沈み込んだ。彼らはそういう苦しみの中でもがきながらも必死で何かをつかんで「生きていこう」としている。私たち親の前で、本当の声を言葉にしてくれたことに感謝したい。私たち親は彼らのそうしたメッセージをただ通り過ぎる言葉にしているかー、自分自身を守るためにあきらめてはいないかー、思うようにならないことを人のせいにしていないかー、心に問いかけてみたい。
 人間的な「温もり」はどんな言葉を並べても及ばない時がある。その「温もり」を子供はいつまでも待っている。
 その「温もり」が人間の成長と生きていくためにいかに大切なことなのか、今回彼らに改めて教わった。
 ゆういちさん、まり子さん、たか子さん、ありがとう！
 本当の親になるために、私たちは挫折の中で何度も何度も立ち上がり、その都度何かを学び取りたい。
 苦しみの中からこそ、暗闇に光るダイヤモンドのような喜びを経験できるに違いないと思うからである。

(しの原)